

〔萬葉集二十〕天平勝寶七歲乙未二月相替遣筑紫諸國防人等歌
之良奈美乃與曾流波麻倍爾和可例奈波伊刀毛須倍奈美夜多妣蘇氏布流

右一首足利郡上丁大舍人部禰麻呂

〔碩鼠漫筆六〕利と云語

利ノ字かゝと訓ムはかゝやくのかゝにて事物十分に満足するを云語なり、かゝやくと云も光明にまれ英名にまれ満足せるを云るにて知べし。○中
リ、李善注、鬻賣贏利尺せり、クフサトハ買賣ノ利潤也、利字ヲバカバトヨム、カバト云共利潤義也、按に鬻云云は、西京ノ賦に見へて、贏の古訓とある利潤も亦満足の義なり、クフサ、或ハクボ義は未考へれど、カバと云も同意なり、文選は贏とよみ、推古天皇紀には、利字又下野國に足利を訓り、そは二十年條に其留臣而用則爲國有利、何空棄海島耶と見へたり、

	那須 ^{ナス}	鹽屋 ^{シホノヤ}	芳賀 ^{ハカ}	河内 ^{カワチ}
管九	同	同 ^{之保乃夜}	同 ^{濃加}	同
同	同	同	同	同
九郡	同 ^{知元}	鹽屋 ^{シホノヤ} 鹽谷 ^{シホノヤ} 元 ^知	同 ^{知元}	同 ^{知元}
同	同 ^{ナス}	鹽屋 ^{シホノヤ}	同 ^ガ	同 ^{カワチ}
同	同	鹽谷	同	同
同	同	同	同	同
同	同 ^{ナス}	同 ^{シホノヤ}	同 ^ガ	同 ^{カワチ}
郡十	同	同	同	同